

二郎氏を失ったことは、日本の学会にとって大きな損失である。彼の遺稿集が[4]として出版されたが、この遺稿集は日本のゲーム理論の理論的研究が高い水準にあることを示している。）

ゲーム理論が新しい発展段階に入った今、日本でも、さまざまな分野でゲーム理論を専門に研究するところが多数生まれ、幅広い研究が進展することを切に願っている。このことは、単にゲーム理論それ自体の発展にとって願わしいというだけでなく、それと関連する分野にとっても、きわめて有意義なことであるに違いない。

参 考 文 献

- [1] Brams, S., Schotter, A. and G. Schwödiauer, (eds): Applied Game Theory. Physica-Verlag, 1979
- [2] 林亜夫；地方自治体の共同事業における意思決定—事務組合における費用負担分析，研究資料，1981
- [3] Moeschlin, O. and Pallaschke, D.(eds); Game Theory and Related Topics, North-Holland, 1979
- [4] 鈴木光男編；Game Theory and Social Choice—Selected Papers of Kenjiro Nakamura,；勁草書房，1981
- [5] 鈴木光男；ゲーム理論入門：共立全書，共立出版，1981年10月



●デジジョン・サポート・システム●

オープン会員制をとったところ約30名の参加を得て、4月に準備会、5月26日に第1回の部会を開催した。その際、全員参加の計画方式(SR手法を利用)をとって、2年間の目標の設定、実行計画案を練った。第2回目は6月27日に開催(於:地方自治情報センター)。8月は下旬にMITでDSSの研究を行なっている Meador 氏の来日の機会をとらえて会合を開いた。詳細は学会事務局あるいは、主査:松崎功保, 03(585)1195, 幹事:星孝雄, 0422(51)5181 ex. 599まで。オープン会員もあと数名募集中。

●環境システム●

- ・第4回 日時: 6月17日(水)18:00~20:00 場所: 日科技連 参加者: 3名 テーマ: 1)バイオ・リアクターについて(有水 疆) 2)生産計画におけるターンパイク定理について(小田中敏男)
- ・第5回 日時: 7月15日(水)18:00~21:00 場所:

日科技連 出席者: 4名

- (1) 林業における間伐について: 小田中敏男
ポントリヤギンの最大化原理を用いて、林業における間伐をバンバン制御としてとらえることを試みた。
- (2) バイオ・リアクター(II); 有水 疆
メタンガス発生機構を制御と同定として解決する方式を検討した。

●混雑現象と待ち行列●

- ・第1回 日時: 4月18日(土)14:00~17:00 場所: 東京工大(大岡山キャンパス)本館3階会議室 出席者: 23名 (1) 電話網における異常ふくそう現象
橋田 温(武蔵野通研)
災害等の要因による電話網の異常ふくそうの具体例とその対策法を論じた。
- (2) Q-GERT について 森村英典(東京工大)
ネットワーク構造をもつ確率システムの解析手法の1つである GERT とそれを模して作られたシミュレーション言語 Q-GERT を紹介した。
- ・第2回 日時: 5月23日(土)14:00~17:00 場所: 東京工大(大岡山キャンパス)南棟5階555号室 出席者: 18名 テーマ: 混雑現象に関する自由討論
混雑現象に対する従来の待ち行列モデルの正当性について、電話網や交通の具体的事例を中心に討議した。